

富永 憲生教授 略歴および著作目録

略 歴

- 昭和22年4月 山口県に生まれる
昭和45年3月 九州工業大学 工業化学科 卒業
昭和45年4月 神戸大学 経済学部 第二課程 学士入学
昭和50年3月 神戸大学 経済学部 第二課程 卒業
昭和50年4月 東京大学 大学院 経済学研究科 応用経済学専攻修士課程 入学
昭和52年4月 東京大学 大学院 経済学研究科 応用経済学博士課程 進学
昭和56年3月 東京大学 大学院 経済学研究科 応用経済学 博士課程 単位取得満期退学
昭和56年4月 日本学術振興会 奨励研究員 (昭和57年3月まで)
昭和57年3月 日本経営史研究所の委託によりYKK (吉田工業) 社史編算 (昭和59年3月まで)
昭和59年4月 東亜大学 工学部 組織工業科 講師
昭和61年4月 東亜大学 経営学部 助教授
平成6年4月 広島市立大学 国際学部 助教授
平成10年4月 広島市立大学 国際学部 教授
平成12年1月 経済学博士(大阪大学)
平成17年4月 広島市立大学評議員 (平成18年3月迄)
平成25年3月 広島市立大学 国際学部 定年退職

学会活動

- 昭和56年6月 社会経済史学会会員
昭和59年9月 日本産業技術史学会会員 (平成25年3月迄)
平成6年4月 中四国商経学会会員
平成7年5月 経営史学会会員
平成14年12月 企業家研究フォーラム会員

主要研究業績

I 著書

- 『金輸出再禁止後の日本経済の躍進と高成長商品』 (単著)
平成11年3月 溪水社
『経済分析序説 一地域経済を考えるために』 (編著) 担当部分 第7章 貨幣と金融 第9章 国際貿易と地域経済 第10章 国際収支と国際金融
平成元年10月 ナウカ株式会社
『生活を考える経済学』 (編著) 担当部分 第6章 現代社会と企業 第11章 暮らしと金融 第12章 暮らしと財政 第13章 貿易と国際経済
平成4年4月 建帛社

II 主要学術論文

- 「賃金変動とその影響 一両大戦間期の日本経済」(上)
昭和55年6月 日本関税協会『貿易と関税』第28巻6号

- 「賃金変動とその影響—両大戦間期の日本経済」(下)
 昭和55年7月 日本関税協会『貿易と関税』第28巻7号
- 「両大戦間期のカルテル活動とその効果」
 昭和57年2月 『社会経済史学』第47巻5号
- 「1932～36年の日本経済—高度成長過程の分析」
 昭和61年3月 原朗編『近代日本の経済と政治』山川出版社、所収
- 「1932～36年の日本経済—産業連関表による分析」
 昭和61年9月 東亜大学『研究論叢』第11巻1号
- 「昭和恐慌期前後の労働市場の実態」
 昭和62年3月 東亜大学『研究論叢』第11巻2号
- 「1930年代の缶詰産業—飛躍とその要因」
 昭和62年10月 『社会経済史学』第53巻4号
- 「1929～36年間の重要高成長商品について」(1)
 平成2年9月 東亜大学『研究論叢』第15巻1号
- 「1929～36年間の重要高成長商品について」(2)
 平成2年9月 東亜大学『研究論叢』第15巻2号
- 「1929～36年間の重要高成長商品について」(3)
 平成3年9月 東亜大学『研究論叢』第16巻1号
- 「1929～36年間の重要高成長商品について」(4)
 平成4年3月 東亜大学『研究論叢』第16巻2号
- 「1929～36年間の重要高成長商品について」(5)
 平成4年9月 東亜大学『研究論叢』第17巻1号
- 「1924・28年の商品別生産額について」
 平成5年9月 東亜大学『研究論叢』第18巻1号
- 「戦後日本の価格統制とドッジ・ライン」
 平成9年7月 広島市立大学国際学部『広島国際研究』第3巻
- 「金輸出再禁止後の高成長商品と日本経済」
 平成10年8月 広島市立大学国際学部『広島国際研究』第4巻
- 「両大戦間期の産業別有業人口の変動—1920・30・40年」
 平成13年7月 広島市立大学国際学部『広島国際研究』第7巻
- 「『広島県統計書』の職業別有業者数の整理・吟味と若干のファインディング」
 平成14年11月 広島市立大学国際学部『広島国際研究』第8巻
- 「経済発展と地域—広島市とその周辺」
 平成14年11月 中村隆英・藤井信幸編『都市化と在来産業』日本経済評論社、所収
- 「明治期佐伯郡・安佐郡・山県郡の道路網の形成について」
 平成15年11月 広島市立大学国際学部『広島国際研究』第9巻
- 「明治期広島地域における工業化の実態」
 平成16年11月 広島市立大学国際学部『広島国際研究』第10巻
- 「第一次大戦前後の広島地域の工業化の実態—工場化の進展を中心に」
 平成17年11月 広島市立大学国際学部『広島国際研究』第11巻
- 「両大戦間期広島地域における工業化の進展—広島県統計書による分析」
 平成18年11月 広島市立大学国際学部『広島国際研究』第12巻
- 「第一次大戦期広島県における工場化の実態—広島県統計書の諸工場欄のデータベース化による分析」
 平成19年11月 広島市立大学国際学部『広島国際研究』第13巻

「明治期在来産業展開の諸相—広島県勸業年報による分析」

平成20年12月 広島市立大学国際学部『広島国際研究』第14巻

「明治期広島県における工場の展開」

平成21年11月 広島市立大学国際学部『広島国際研究』第15巻

「高度成長期中小企業団地の形成について—出島中小企業工業団地を事例として」

平成22年11月 広島市立大学国際学部『広島国際研究』第16巻

「第1次大戦期前後における工場動力化の進展—広島県における工場動力化を事例として」

平成23年11月 広島市立大学国際学部『広島国際研究』第17巻

「戦前期広島県における工場の展開」

平成24年11月 広島市立大学国際学部『広島国際研究』第18巻

Ⅲ 書評

白木沢旭児『大恐慌期日本の通商問題』

平成14年12月『経営史学』第37巻3号

松浦利隆『在来技術改良の支えた近代化—富岡製糸場のパラドックスを越えて』

平成20年1月『渋沢研究』第20号

Ⅳ その他

史料紹介

「占領期の企業再編成」（共著）担当部分 化学・製材・木製品・紙パルプ・印刷製本工業

昭和57年10月 山川出版社『年報・近代日本研究-4 太平洋戦争—開戦から講和まで』

広島市立大学特定研究研究成果報告書（代表：富永憲生）

平成18年3月 『広島地域の産業と企業の研究—自動車産業とマツダ』

広島市立大学国際学部ワーキングペーパー

平成25年3月 「資料：『広島県勸業年報』『広島県統計書』の工場データのデータベース化」